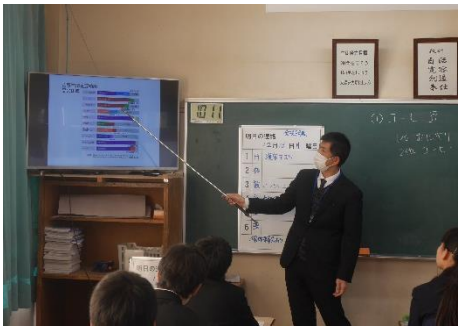
プログラム活用事例

社会科地理「世界の諸地域　アフリカ州」についての理解を深めるための授業としてモジュール2と3の教材をアレンジして活用

●実施概要

学校・学年	神戸市立駒ヶ林中学校　　1年生　1クラス　34名
実施プログラム	【モジュール２】　コーヒー豆からアフリカ州をふりかえる ※モジュール3映像教材も活用
実施時間	●社会科　地理的分野　1時限（50分）

●世界の課題について理解し、考えを深めてほしい



「アフリカのモノカルチャー経済など、必要な知識を習得するだけでなく、それらについて、深く理解したり具体的に考えられるようになってほしい。」と語る古居先生。

生徒が地理的分野の中で世界について現状を理解し、そこからそれぞれの国の特徴や課題を捉えることができる授業づくりをめざし、同じアフリカ州のガーナでは、チョコレートという身近な製品からプランテーションなどの学習と関連させ、児童労働について学習。今回はモジュール2・3を活用し、エチオピアの産業の特色と経済問題について理解し、エチオピアが発展を続けるために必要な事を考えるための授業を実施しました。

●アレンジ活用ポイント（モジュール3　企業の取組映像の活用方法）

導入では、教材である生豆とコーヒーに関するクイズを用意。既存スライド教材も活用し、コーヒーの主な生産国やアフリカ州で日本が一番多く輸入している国がエチオピアであることを理解し、コーヒーと私たちの生活とのかかわり、生産国であるエチオピアについて興味・関心を喚起し、学習への意欲を高めました。

展開①②では、「モノカルチャー経済の問題点」「エチオピア経済が発展を続けるために必要なこと」について、個人で考えさせた後、グループで意見交換をする時間を設けました。「エチオピア経済が発展を続けるために必要なこと」についてのワークの当初は、「コーヒーをたくさん飲む。」などの意見も出ていましたが、意見を出し合う中で、「児童労働などがないところで作られているか確かめてから買う。」「コーヒー以外の製品も生産できるように、技術や資金の援助をする。」など、徐々に学びを深めている様子でした。その後、エチオピア経済が発展を続けるための日本企業の取組として、既存映像教材③（モジュール3教材）「持続可能な社会に向けた日本企業の取組」を視聴し、「持続可能な社会」に必要な考え方や、具体的な取組について知るとともに、生産国の人や政府の人のインタビューからエチオピアの人々の生活の変化についても学ぶことができました。

●授業の流れ（50分実施）

既存教材使用
既存からの変更
教員アレンジ
オリジナル教材

導入	展開①	展開②	まとめ
教員アレンジ	教員アレンジ	教員アレンジ	
コーヒーについて興味・関心を高める	モノカルチャー経済の問題点を知る	エチオピア経済が発展を続けるために必要なことを考える	本時のふりかえり
オリジナルスライド 既存スライド教材	オリジナルワークシート	オリジナルワークシート 映像教材③	オリジナルワークシート

●実施教員の声

神戸市立駒ヶ林中学校
古居　一晃　先生

Q:本プログラムを使用していかがでしたか？

自分がその教材を活用するかどうか判断する際の基準は、「アレンジのしやすさ」です。その点において、この教材はプログラムのねらいやワークの内容について具体的に書かれた指導案を含むティーチャーズガイドや、現地の人の声の入った映像教材など、使い方が限定されない教材であったため、アレンジがしやすいと感じました。おかげで、生徒の興味・関心や、日々の授業の進行の仕方に合わせて活用することができました。

Q：授業のねらいを達成するために本プログラムや教材は有効でしたか？

導入で、提供いただいた生豆なども活用しながら、コーヒーと私たちの生活のかかわりについて触れたことで、自分の生活と世界とのつながりを意識することにつながり、生徒が主体的に授業に参加するきっかけになりました。

また、1年生では、「持続可能な社会」について学習の中で触れる機会はあまりないのですが、映像教材を通して、その考え方に触れたことで、今後理解を深めていくきっかけになったと感じています。